

あいち防災通信

第16号
発行
愛知県・あいち防災
協働社会推進協議会

大切な命を守るため、一人ひとりが
心構えを持ち、地域でお互いを
支え合いましょう



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

◆台風第19号等

台風第19号は、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸しました。10日からの総雨量は神奈川県箱根町で1000ミリに達し、関東甲信地方と静岡県との17地点で500ミリを超えました。この記録的な大雨により、12日15時30分に静岡県、神奈川県、東京都、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県の7都県に、12日19時50分に茨城県、栃木県、新潟県、福島県、宮城県の5県に、13日0時40分に岩手県に特別警報が発表されました。また、東京都江戸川臨海では観測史上1位の値を超える最大瞬間風速43.8メートルを観測するなど、関東地方の7か所で最大瞬間風速40メートルを超える暴風となったほか、東日本から北日本にかけての広い範囲で非常に強い風を観測しました。

10月24日から26日にかけて、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に広い範囲で総降水量が100ミリを超え、特に千葉県や福島県を中心に200ミリを超える記録的な大雨となりました。

台風第19号、低気圧による大雨により、暴風雨・飛来物による配電設備の故障などで、最大約55万戸の大規模停電が発生し、水道管破損及び流出と停電等により最大約17万戸が断水しました。

<被害状況>

人的被害 死者 99人、負傷者 484人

住家被害 全壊 3,081棟、半壊 24,998棟、一部破損 26,284棟

(非常災害対策本部発表資料「令和元年台風第19号等に係る被害状況等について」令和元年12月12日15時00分現在)



長野県長野市被災現場（千曲川決壊地域）

◆台風第15号

台風第15号は、9月9日3時前に三浦半島付近を通過した後、同日5時前に強い勢力で千葉市付近に上陸しました。台風の接近・通過に伴い、伊豆諸島や関東地方南部を中心に猛烈な雨、風となりました。総雨量では伊豆市天城山で450ミリに達するなどの大雨となり、最大瞬間風速は、神津島村の58.1メートルを始め、伊豆諸島と関東地方南部の3地点で50メートル以上を観測するなど、多くの地点で観測史上1位の最大風速や最大瞬間風速を観測する記録的な暴風となりました。また、暴風雨・飛来物による配電設備の故障などにより、最大約93万戸の大規模停電が発生しました。

<被害状況>

人的被害 死者 1人、負傷者 150人

住家被害 全壊 342棟、半壊 3,927棟 一部破損 70,397棟

(内閣府発表資料「令和元年台風第15号に係る被害状況等について」令和元年12月5日17時00分現在)



電柱・倒木倒壊の状況(鴨川市内)

提供：国土交通省関東地方整備局



被災した護岸の状況(横浜市金沢区)

◆令和元年8月の前線に伴う大雨

九州北部地方を中心に8月26日からの総降水量が600ミリを超えたところがあるなど記録的な大雨となりました。特に、8月28日明け方には1時間100ミリ以上の記録的な大雨が相次いで観測されるなど、重大な災害の起こるおそれ著しく高まったことから、28日5時50分に佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報が発表されました。

また、河川氾濫の影響で佐賀県大町町や伊万里市の鉄工所から大量の油等が流出し、周辺地域に滞留する事故が発生しました。

<被害状況>

人的被害 死者 4人、負傷者 2人

住家被害 全壊 95棟、半壊 877棟、一部破損 53棟

(内閣府発表資料「令和元年8月の前線に伴う大雨に係る被害状況等について」令和元年12月5日15時00分現在)



8月28日(水)13:30頃 油流出状況

提供：国土交通省九州地方整備局



8月29日(木)6:00頃 孤立した順天堂病院

地域で備える

平成30年7月豪雨では、様々な防災情報が発信されているものの、多様かつ難解であるため多くの住民が活用できない状況でした。

これを踏まえ、住民等が情報の意味を直感的に理解できるよう、防災情報を5段階の警戒レベルにより提供することとなりました。

警戒レベル3は高齢者等避難、警戒レベル4は全員避難とし、避難のタイミングが明確化されました。

警戒レベル5は災害発生情報とし、命を守る最善の行動を促すこととなりました。



市町村が出す避難情報と国や都道府県が出す気象情報の整理

<避難情報等>			<防災気象情報>
警戒レベル	避難行動等	避難情報等	【警戒レベル相当情報(例)】
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報 ^{※2} <small>※2 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令(市町村が発令)</small>	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報 等
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) ^{※3} <small>※3 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令(市町村が発令)</small>	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・ 高齢者等避難開始 (市町村が発令)	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 等
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)	これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)	

(国土交通省、気象庁、都道府県が発表)

※1 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

地域で声をかけ合い、【警戒レベル3】や【警戒レベル4】での迅速な避難を心がけましょう

上記の防災気象情報欄には、警戒レベル相当情報(例)として、警戒レベル5相当情報では、氾濫発生情報や大雨特別警報等が発表された場合は、警戒レベル5の既に災害が発生している状況であり、「命を守る最善な行動をとる」こととしています。

また、警戒レベル4では、市町村が避難勧告や避難指示(緊急)を発令した場合には、警戒レベル4相当の河川の氾濫危険情報や土砂災害警戒情報などが発表されており、避難行動等として速やかに避難先へ避難するということとなります。

避難勧告等を発令する際には、それに対応する警戒レベルを明確にして、対象者ごとに警戒レベルに対応したとるべき避難行動等がわかる様に伝達し、住民の自発的な避難判断等を支援することとなりました。

伊勢湾台風60年のつどいを開催しました

2019（令和元）年は伊勢湾台風の襲来から60年の節目の年にあたり、この災害の記憶と教訓を次世代に伝えるとともに、子どもから大人まで幅広い世代が楽しみながら学んでいただくため、8月4日（日）に愛知県女性総合センター（ウィルあいち）において、「伊勢湾台風60年のつどい」を開催しました。

当日は、追悼式のほか、講演会、子ども向け講演会や体験型防災アトラクション、防災新聞の作成等を開催し、親子連れや若者等、約1,300人の方に御来場いただきました。追悼式の外、清水義範氏による講演会、気象予報士の寺尾直樹氏による子ども向け講演会を始め、小学校高学年以上を対象とした防災新聞を作るワークショップ、脱出ゲームの要素を組み込んだ、体験型防災アトラクション「フラッド」、県内21の防災関係団体等に御協力いただき啓発ブースを出展しました。

伊勢湾台風60年の節目の年にあたって、様々な年代層の県民の皆様とともに、風水害について学ぶ機会となりました。



子ども向け講演会



体験型防災アトラクション フラッド

ぼうさいこくたい2019、あいち・なごや防災フェスタを開催しました

防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）は、国民全体で防災意識を向上することを目的に、平成28年度より内閣府等の主催で開催している日本最大級の防災イベントです。

10月19日（土）、20日（日）の2日間にわたり、名古屋市ささしまライブエリアで開催され、パネルディスカッション等を行う「セッション」、来場者が参加できる「ワークショップ」、防災関係車両や取組みをPRする「展示ブース」等で構成され、過去最大の211団体の出展、約15,000人の来場者があり、この地域の防災意識の高さが窺われました。

本県は、この「ぼうさいこくたい2019」に併せ、名古屋市とともに「あいち・なごや防災フェスタ」を同時開催しました。当日は、防災活動に取り組み、地域防災力の向上に貢献した自主防災組織等の計10団体に対して、防災貢献団体表彰を行いました。また、防災関係団体に御協力いただき36の啓発ブース、13台の車両展示やうんこ先生等の人気キャラクターによるステージ企画を実施しました。



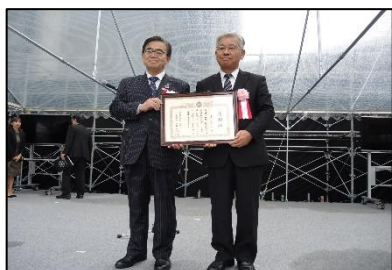
ぼうさいこくたい2019 オープニングセッション



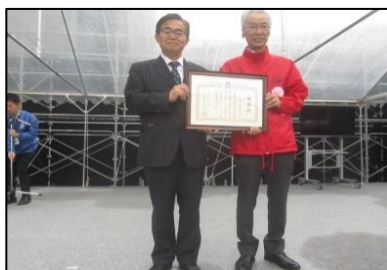
人気キャラクターによる防災ステージ

令和元年度愛知県防災貢献団体表彰受賞団体の紹介

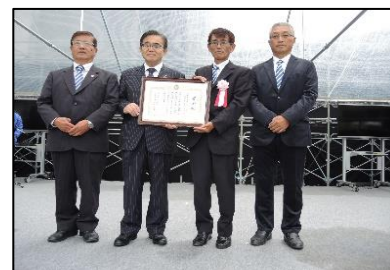
〔愛知県防災貢献団体表彰制度とは〕
地域社会に活動基盤を持つ自主防災組織や企業などの中から、優れた工夫・アイデアを防災活動に取り入れて活動している団体を表彰する制度です。



上野住宅防災会(犬山市)



岩崎台区防災会(日進市)



神島田小学校区コミュニティ
推進協議会防災安全部会(津島市)



深田自主防災会(大治町)



千鳥自主防災会(東海市)



内海山海防災連絡協議会(南知多町)



美浜・南知多防災の会(美浜町)



学校法人名古屋学院大学(名古屋市)



豊橋市聴覚障害者協会(豊橋市)

※上記団体の他「沖之島自主防災会」(あま市)も受賞

防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」を開催しました

南海トラフ地震等の大規模災害時において、ボランティア、学生、行政等の地域のあらゆる方々が、地域、世代、組織等の枠組みを超えて協力し合える絆を構築するため、10月19日(土)の「ぼうさいこくたい2019」で、防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」を開催しました。

東日本大震災や平成30年7月豪雨等の被災者等による実践報告や、西日本の巨大地図を使ったプロジェクションマッピング、ワークショップを開催し、約700名の方に御参加いただきました。



ワークショップの様子

災害ボランティアセンター開設運営訓練を行いました

最近の大規模災害においては、NPO・ボランティア等の被災地での活動が、早期の被災者の生活再建の支援として、必要不可欠なものとなっています。被災市町村では社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動を支援するため、「災害ボランティアセンター」と呼ばれる活動拠点を設置・運営します。

11月10日（日）に開催した「愛知県・飛島村 津波・地震防災訓練」の一環で、愛知県社会福祉協議会、飛島村社会福祉協議会等と連携して、飛島村災害ボランティアセンター開設運営訓練を飛島村ふれあいの郷で実施しました。当日は、村社協と村災害対策本部のセンター設置協議から始まり、センター開設、ニーズ相談・聞き取り、センター運営訓練とタイムラインに沿った実践的な訓練となりました。



訓練内容の説明



センター運営訓練

防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」を開催しました

南海トラフ地震などの大規模災害に備え、2012（平成24）年度から実施してきた防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」については、2019（令和元）年度から周知時期をひと月ほど前倒し、講義資料の充実（カラー化）、運営体制の強化等の見直しを行い開催し、延べ2,389名の方が受講される見込みとなっています。

2020（令和2）年度も運営の改善、講義内容の充実を図り、防災人材の育成を引き続き推進していくため、受講者の声や最近の動向を踏まえた見直しを行い開催する予定です。皆様の積極的な御参加をお待ちしています。

なお、2020（令和2）年度の詳細は、4月中下旬に掲載するWebページ（<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html>）を御確認ください。

※主催：あいち防災協働社会推進協議会、あいち・なごや強靱化共創センター



防災基礎研修「防災概論」

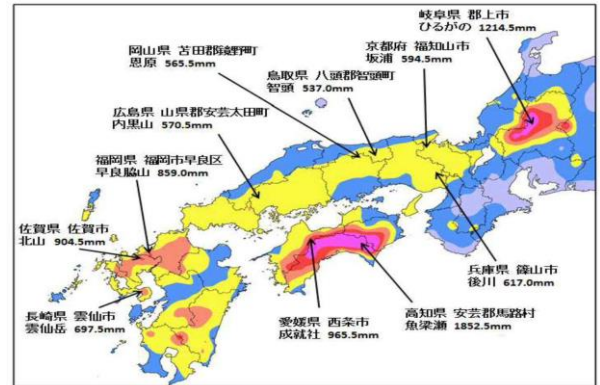


地域防災コース災害図上訓練(DIG)演習



📣「逃げ遅れゼロ！」を進める研修会を開催します

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)の経験から「自らの命は自らが守る」ことを基本に、「逃げ遅れゼロ！」を目指し、住民が、行政からの避難情報や気象情報を正しく理解し、避難のタイミングを適切に判断して、避難行動に移すことができるよう、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)の被災状況をまとめた「災害エスノグラフィー」を用いて、どのように命を守る行動をすべきか地域全体で考える研修を、市町村等と連携して県内各地で実施していきます。



平成30年7月豪雨(西日本豪雨)の状況

📢「南海トラフ地震臨時情報」の提供が開始されました

気象庁では、南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、南海トラフ地震の想定震源域で大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合等に、「南海トラフ地震臨時情報」(以下、「臨時情報」と記載)や「南海トラフ地震関連解説情報」を公表します。臨時情報を発表する場合は、情報名の後に「調査中」、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」、「調査終了」のキーワードを付記して発表します。「巨大地震警戒」や「巨大地震注意」のキーワードを付記した臨時情報が発表された場合は、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。詳しくは以下の気象庁Webページの解説を御覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nreq/info_criterion.html

情報名	キーワード	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報 ※防災対応がとりやすいようキーワードを付記して発表します	(調査中)	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	(巨大地震警戒)	巨大地震の発生に警戒が必要な場合 ※想定震源域内のプレート境界でM8.0以上の地震が発生したと評価した場合
	(巨大地震注意)	巨大地震の発生に注意が必要な場合 ※想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等
	(調査終了)	(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合
南海トラフ地震関連解説情報		○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 ○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)

🏠民間事業者と連携した家具固定イベントの実施、防災啓発イベント等での啓発活動を実施しています🏠

ハウジングセンター、ショッピングセンター等で家具等転倒防止グッズや啓発チラシの配布、家具固定の実演・相談等を実施しています。また、防災訓練や防災以外の様々なイベントに出向き、家具固定の実演・相談、パネル展示等を実施しています。

📞 愛知県家具固定相談窓口を設置し、家具固定に関する相談を受付中！ 📞

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課内に家具固定に関する相談窓口を設置しています。家具固定について疑問点などがございましたら、以下の相談窓口へお電話、FAX又はEメールでお問合せください。

<愛知県家具固定相談窓口>

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループ（本庁舎2階北側）

電話：052-954-6700（ダイヤルイン）

月～金 午前9時から午後5時15分まで

（土、日、国民の祝日等の休日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く。）

FAX：052-954-6911

Eメール：bosai@pref.aichi.lg.jp

主な相談内容

- ・ 自主防災会等を対象とした講習会等への家具固定推進員の派遣相談
- ・ 家具固定の方法や器具の紹介
- ・ 家具固定器具取付け支援制度の紹介 など



📞 愛知県家具固定推進員の派遣を実施しています 📞

家具固定推進員（家具等転倒防止対策を推進するボランティア）を地域の講習会やイベント、防災訓練等に派遣し、家具固定器具の取付実演や啓発活動を実施しています。家具固定推進員の詳しい内容や派遣申込みについては、「愛知県家具固定相談窓口」までお問合せいただくか、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/h31kagukoteisuishininhaken.html>

📞 愛知県防災教育センター体験講習会開催中 📞

愛知県消防学校（尾張旭市）の防災教育センターにおいて、県民の皆様からの申請に基づき、家具固定器具取付・ガラス飛散防止フィルム貼り体験講習会始め3つの体験講習会を開催しています。

<体験講習会の内容>

- ・ 家具固定器具取付・ガラス飛散防止フィルム貼り〔所要時間：2～3時間〕
- ・ 避難所運営ゲーム（HUG）〔所要時間：2～3時間〕
- ・ 災害図上訓練（DIG）〔所要時間：2～3時間〕

体験講習会の詳しい内容や体験申込みについては、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課（電話052-954-6190）までお問合せいただくか、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/bousaikyouiikusenta30.html>

愛知県の防災に関する情報は以下の防災安全局のページから御覧いただけます。

<https://www.pref.aichi.jp/bousai/>

